

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190101139		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ旭ヶ丘		
所在地	札幌市中央区南8条西20丁目1-10		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果市町村受理日	令和6年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和6年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族団欒の茶の間のような家庭的な優しさに包まれた、入居者様と職員の笑顔が絶えない温かなおうちでありたいです。持てる力を発揮しながら、楽しく心穏やかにその人らしく日々を過ごしていただけるよう、いつでもそばに寄り添っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市中央区南円山地区の市街地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。菊水・旭山公園通りや西20丁目通りに面しており、近隣には、コンビニやドラッグストア、飲食店などがあり、利便性のよい地区である。法人は、札幌市を中心に関東地区や東北地区に認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム、居宅介護支援などの介護事業所、障がい者相談支援や就労支援B型事業所などの障がいサービス事業、保育事業など広く展開しているグループ会社で、培った経験を活かしている。当事業所は、2023年3月1日に開設したばかりだが、家族からの評価も高く、コンパクトタイプのこだわりの室内設計で、台所から四方の見渡しができ、利用者の見守りが容易で、職員にも心強い。1階の浴室はリフト浴で、室内は壁等が和の雰囲気装飾で、落ち着いた雰囲気である。利用者は、リビングで居心地よく日中を殆ど過ごしており、まさに「団欒」である。これからも認知症高齢者の事業所として、期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼の際に理念を唱和しており、理念の実践につなげています。	法人理念と別に「暖燗(だんらん)」という事業所理念を設け、事務所の壁に掲示している。家族団欒のように暖かく居心地の良い場所を目指している。会議の際に振り返りなども行い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時などで近隣の方との交流を図っている。回覧板を楽しみにされたり、届ける際に同行していただいたりもしている。まだ開設間もないため機会がなかったが、町内会の行事にも参加していきたいと考えております。	町内会に加入し、運営推進会議への参加交流や回覧板の回覧もあるが、開設間もない事もあり、行事への参加はまだ実施できていない。	今後の行事への参加や回覧板に事業所紹介のチラシを入れてもらうなどを検討し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流される事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの見学や質問への対応を行う中で、認知症への理解や支援の方法などのアドバイスをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方に会議の間の利用者様の様子やサービスの実施状況等の報告を行っており、ご意見やご質問をサービス向上に生かさせていただいております。	参加される町内会の役員の方や家族の方は多く、包括支援センター担当者も参加し活発な意見交換が行われており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況報告や、各種報告を行い、また不明点など電話で確認を行い、事業所の実情を伝えて、協力関係を築くよう取り組んでいる。	必要時の市、区の担当者との連携をはじめ、運営推進会議に参加の包括支援センター担当者とも連携を図り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、職員に定期的に教育を行い、スピーチロックを含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回委員会を開催しており、年2回の虐待防止研修をはじめ、毎月の全体会議の際にも都度話題としてスピーチロックや身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、虐待の芽から摘み取れるよう学ぶ機会を設けて防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学んでおり、必要性のある方がいれば、活用できるよう話し合い支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細なことでも、管理者や職員に伝えていただけるような雰囲気作りを行いご意見ご要望を反映するように心がけております。	毎月ホーム便りを発行し、ホーム内の様子を家族に発信するとともに、電話や面会、運営推進会議の際に直接状況報告をしたり、家族の意見を聞き取りする大切な機会として心掛け、それらを運営に反映させるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声は聞くようにしており、運営に関して意見や提案を反映しています。	職員との面談は年3回実施され、それ以外にも日々の勤務の際や全体会議の際などに、気軽に職員が意見や提案を話しやすい雰囲気を心掛け、内容を反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を含め、職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けています。現在も実務者研修、初任者研修に5名の職員が受講中です。ケアの質の向上のため事業所内での研修も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者とのネットワークを通じて、意見の交換を行い、サービスの質の向上に役立てております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定面談から安心してこれから生活ができるよう信頼関係の構築に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から誠心誠意対応し、信頼関係を築くよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の想いを聞き取り、感じ取って必要な支援を見極め、対応させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護している側という考えではなく、共にみんなで生活をするため、役割を持っていただき、生き生きと暮らしてもらえよう努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と協力しながら、一緒に利用者様を支えていくような関係作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会の機会の提供や電話の取り次ぎ、手紙が届いた際には読んで差し上げたり、馴染みの場所のお話をしたりしながら、馴染みの人や場所との関係の維持を図っています。	家族や兄弟、友人の来訪も多く、3人以内で30分と設けてはいるも、家族との外出や外泊も可能で、できるだけ馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のかかわりが円滑にいくよう、間に入り支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族やご本人との関係性を大切に相談援助や支援を行っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの心の奥の思いを知るように関わっております。暮らしの中で、思いや希望、意向の実現に向け努めています。	1人1人の意思表示の状態に合わせた方法を大切にし、家族からの聞き取りなども踏まえて、個々の思いや意向を把握できるように務めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のこれまでの暮らしについて把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人それぞれの現状の把握に努め、有する力を発揮していただきながら、心地よく生活できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向や職員の意見やアイデアを反映し介護計画を作成しています。	居室ごとの担当者を中心として全員でのモニタリングをもとに、ご家族や医師の意見も反映させ、ケア会議の際にアセスメントを実施。計画作成担当者がケアプラン原案を作成し、ご家族に確認してもらい交付している。3ヶ月毎に見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノート、業務日誌に記録し、職員間で情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに合わせ柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働により、楽しく地域の中で生活		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と良好な関係を築いております。随時適切な医療を受けられております。	2週に1回の往診があり、看護師が週3回在籍と24時間のオンコール体制をとっており、適切な医療を受けられるように支援している。外部受診は基本的には家族対応で実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と連携を図り、利用者様について気付いたことを伝え、アドバイスをいただいたり、受診やドクター指示を受けられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との円滑な連携を図り、情報の共有をし、病状が安定した際には早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の指針について、ご家族には入居契約時に説明をし同意を得ており、実際にターミナルになった場合には、都度話し合いを行い、地域の関係者とチームでの支援を行っています。	入居時の説明と、重度化や変化の際には都度対応について改めて説明を予定している。できるだけ本人、家族の意向に添えるような対応の取り組みを心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い実践できるようイメージトレーニングをしてもらっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や災害訓練を行っており、職員に教育しています。	年2回(9月・2月)に避難訓練を実施している。食料や備品の備蓄はあるが、火気厳禁であるが故に、厳寒期の災害に対しての暖をとる方法が未確立である。	R6年4月までに、自然災害対策BCPの作成とそれに基づいた避難訓練などシミュレーション、見直しを行い完成版とすることを期待したい。また、運営推進会議時の訓練実施や蓄電池の準備など停電時に暖をとる方法についても検討されたい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の尊厳を大切に関わるよう職員に周知しております。	年1回の接遇研修をはじめ、月1回の全体会議の際にも都度スピーチロックやプライバシーの確保について確認し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	細かいことでも自己決定の機会を提供し、自己決定自己実現できるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様一人一人の希望に沿った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整え、おしゃれを楽しめるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に、食材の皮むきやもやしの芽取り、盛り付け、味見、食器洗い、食器拭きなどできることをしていただき、力を発揮してもらっています。	食材は外部委託で、調理は主に職員が実施している。可能な限り利用者にもできる部分の参加を促し一緒に行っている。お誕生会や行事の際には、お寿司やピザ、オードブルなどを購入し、食事が楽しみなものになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分の摂取量をチェックし、一人一人の状態にあわせて支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれに応じた口腔ケアを実施しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の力や排泄パターンを活かしたトイレでの排泄ができるよう支援をしています。	排泄チェックシートを参考にしながら、仕草や表情の変化に対応し声掛けを行うなどして、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排便パターンを把握しながら、毎日の牛乳、ヨーグルトの提供、また毎日できる運動の提供により便秘予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人一人の希望やタイミングにできるだけ浴うように入浴支援を行っています。	週2回以上の頻度で入浴実施している。概ね午後からを中心に、できるだけ本人の希望に合わせて実施できるようにしている。また、入浴剤を使用する等入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせて、安心して心地よく眠れるように働きかけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬について理解しています。服薬の確実な支援を行い、変化の確認を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割をもっといただき、張り合いを感じていただけるよう支援しています。楽しく気分転換ができるよう、それぞれに合ったレクリエーションを提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って外出やお散歩をしていただいています。ご家族や地域と連携し外出できる機会を設けています。	ユニット全体での外出は、5事業所合同の秋の大運動会の実施となったが、少人数では紅葉ドライブや近くのスーパーへの買い物、公園への散歩など、できるだけ戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はされておりませんし、預かり金も行っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるよう支援を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は心地よく過ごすことができるよう音や照明、温度の調節を行っております。	「和」を基調とした壁紙や照明などは旅館のような雰囲気がある。居間はカウンターキッチンからも全てが見渡せる空間となっており、日中は寛いでいる利用者が多い。トイレは大小3箇所あり、車いすでも利用しやすい。1階浴室にはリフトも設置されており、体調に合わせた入浴が可能となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭いため、そのような場所を作ることとはできませんが、居室でひとりになれたり、仲良しの入居者様同士で過ごされることがあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、使い慣れた家具を持ってきていただいて、馴染みのものに囲まれた、居心地の良いお部屋になるよう工夫しています。	各居室には、電動ベッドと大きなクローゼットが予め配置されている。窓も大きく明るい居室となっている。利用者は馴染みの家具や飾り物を持参されたり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができること、わかることを活かし、力を発揮しながら安全に生活できるよう工夫しています。		